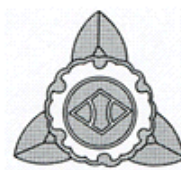


小須戸小学校だより

NO. 7

令和2年12月23日(水) 発行



2020年を振り返って

校長 中林 浩子

早いもので、今年も残すところ8日となりました。2020年は、新型コロナウイルス感染拡大により、大人も子どもも、世界中の人々の日常が一変しました。それにより、失われたものもたくさんありました。学校も様々な影響を受け、教育活動や学校行事ができなくなったり、制限がかかったり、これまで当たり前だと思っていた学校生活が大きく変化しました。

その一方で、この「新しい生活様式」による「新しい日常」「新しい学校生活」の創造は、私たちに新たなことを生み出すチャンスを与えてくれました。

それに代表されるのが10月に行った運動会です。6年生が中心となって、「全校のみんなで一つのことをやって笑顔になりたい!」と勝敗によらない、応援賞も競技賞もない運動会を実現しました。赤白応援団のリーダーシップのもと、全校児童が「みんなが笑顔になれる運動会」の成功に向けて、ひたむきに取り組む姿に私は何度も胸が熱くなりました。

その他にも、学級活動や委員会活動などでも、学年問わず、子どもが学校生活を自分事として考え、相談したり工夫したりしている姿が見られます。私は、そんな場面に出会う度に、子どものもつ底力を感じ、頼もしく思っています。

子どもたちは、「どうせ無理」とあきらめるのではなく、「前はできたのに」と過去をうらやむのではなく、できない理由を探すのではなく、できる理由を考え、「だったら、こうしてみよう!」と発想を転換し、協力して行動することで、目の前の課題を解決していくことを学んでいます。

学年、学級、委員会活動など、これからも子どもたちと教職員とが一緒になって、これからの時代の「新しい学校生活」を創造していくことを楽しみたいと思っています。

さて、2020年がもうすぐ終わります。新しい年を迎える節目に、是非、お子さんに、「この一年で、できるようになったこと」を尋ねてみてください。もし、お子さんが具体的に答えられない時には、お家の方から具体的に伝えていただきたいと思います。

できないことを見つけるのは簡単です。でも、できないことを自覚して、それを乗り越えようとするためには、「自分はきっとできる!」という可能性への自信が必要です。自信は、「〇〇ができた。□□ができるようになった。」と具体的に自覚することの小さな積み重ねによって育まれます。

もし、お子さんが、「何もできるようになったことがない」と言った場合は、もしかすると、勉強や成績にしか目を向けていないのかもしれませんが。人と比べているばかりで自分を見ていないのかもしれませんが。もしくは、高度なできるを想像して自分はできていないと悲観しているのかもしれませんが。できるようになったことは、考え方でも、行動でもいいのです。前述の運動会の取組でも、子ども一人一人の成長が見て取れます。成長しない子どもはひとりもいません。必ず、できるようになったことがあるはずです。どうか、そのことを具体的にお子さんに伝えて、成長を共に喜び、励まし、価値づけをお願いします。

今日のZoomによる全校集会では、子どもたちにも、「今年一年の自分の成長」について話しました。お家で、話題にしていただけたら嬉しいです。

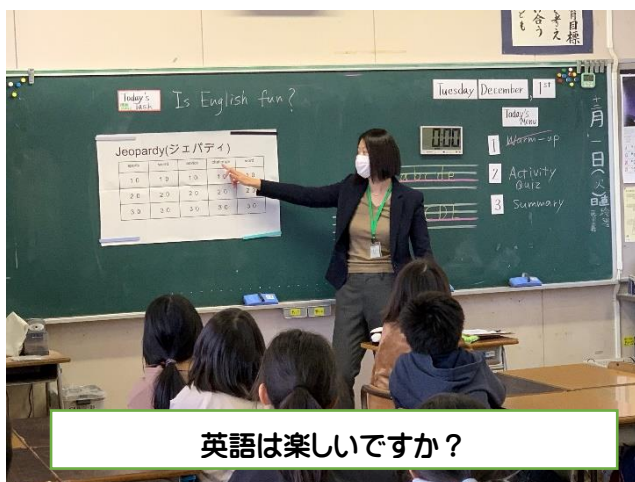
小・中連携 高学年英語体験授業

～令和2年12月1日 小須戸小学校～

英語の楽しさを体験するとともに、中学校の英語の学習に慣れることをめあてに、高学年英語体験授業が行われました。当日は、小須戸中学校英語担当の武者ひとみ先生から、5時間目は5年生、6時間目は6年生の授業をしていただきました。

最初は、緊張していた様子の子どもたちでしたが、次第に武者先生の話す英語を理解しようと熱中して学習に取り組む姿が見られました。今後も、小・中連携の取組の一環として、他の教科でも中学校の先生の体験授業を実施していく予定です。

5年生 英語ゲーム「ジェバディ」



英語は楽しいですか？

- ・中学校の英語の授業で、外国の人と話ができるようにがんばって勉強します。今日の授業はとても分かりやすく、楽しかったです。
- ・クイズで分からないところがあったけれど、今日の出前授業は楽しかったです。私は、初めて英語が楽しいと思いました。今度また武者先生が来るのを待っています。

6年生 「アタック25」クイズ



次の問題を出します。

- ・中学校では、もっと英語が難しくなるとありますが、楽しく学んでいきたいです。今日は、普段やらないことができてとても楽しかったです。
- ・今日の授業は、クイズをしました。とても難しかったけれど、とても楽しかったです。今までとても英語は好きだったけれど、もっと好きになりました。中学校に行ったら、もっと難しくなると思うけれど、がんばりたいです。

冬も読書のススメ



教頭 野村 直樹

日中、校内を巡視すると、図書室にいる児童を必ず目にします。時間割にある図書の時間に学級全員で来室したり、休み時間に自主的に来室したりと、本を求め図書室は毎日盛況です。児童は3密回避で、間隔を空けてカウンター越しに順序よく並び、思い思いに読書に励むなど、目的を達成させる「自分の時間」を楽しんでいます。



コロナ禍の状況で、教職員の会合や研修が軒並み中止やリモートでの実施の中、私自身、以前より確実に増えたのは「自分の時間」。有効活用のために思い立ったのは読書です。平日はすきま時間、休日は時間を決めて、あるいは外出時の待ち合わせの時など…。教育関係の書物が多いのですが、自分の一番の興味・関心はスポーツ系。苗字が同じでファンである野村克也氏の著書を何冊か読み、ミーティングで選手に述べていた人生論や、試合における1球、1打席、勝負所の分析など、野球の奥深さを知り、シーズン中ほぼ毎日中継されていたプロ野球の試合を以前より多面的に視聴できるようになりました。

読書の効果は様々あるでしょうが、人生後半に差し掛かった私にも、これからの時代を担う児童にも、次のような効果が期待できます。

- 創造力が磨かれる
- 視野が広がる
- メタ認知能力が高まる

文字情報をもとに想像を膨らませたり考えを構築したりすることは、先の読めない時代を生き抜く創造力の鍛錬につながります。また**著者の思考の過程をたどると**、自分以外の視点でものを考えることができるようになり、物事に対する多くの視点をもつことができます。また、物語や小説は登場人物の心理や出来事が第三者的な視点で描かれるため、客観的に物事を把握する能力が高められます。その結果として**自分の状態を客観的に把握する能力（メタ認知能力）の向上**につながり、自己分析して気持ちを落ち着かせ、負の感情を抑えることが可能です。（SNSなど、感情の趣くままの配信を防げます!）

読書の理由を児童に問えば、無邪気に「楽しいから」「本が好きだから」と答えるでしょう。読書週間は終了しましたが、暖かい部屋での生活が恋しいこの時期、児童も私も好きな読書に無邪気に取り組み、心豊かな生活を送りたいものです。

お願い～小須戸小図書館の本を探しています～

図書館の蔵書で、未返却本が何冊かあります。年末の大掃除の機会に、各ご家庭で図書館の本がないか見ていただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

「一日オープンスクール」のご案内 2月24日(水)

今年度の最後の「一日オープンスクール」を実施いたします。子どもたちの普段の学習の様子や子どもと教師のかかわりの様子などを自由に参観いただきたいと思います。

今年度新潟市の指定を受けて取り組んできたタブレットを活用した授業を行う学級も予定されています。来年度から、一人一台タブレット学習がスタートします。新しい学習の様子を、ぜひご覧ください。感染症予防のため、

詳細につきましては、後日改めてご連絡いたします。